



# T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『エンジョイローター』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

## W E E K L Y R E P O R T

『夢をかたちに』

～ Make Dreams Real～  
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年10月20日

No. 12

平成20年9月29日

卓話『北京オリンピック報告』

シドニーオリンピックメドレーリレー銅メダリスト

田中 雅美様

皆さんこんにちは。いただいた題目は北京オリンピックの報告です。私、実はアトランタ、シドニー、アテネと3度のオリンピックに出させていただきました。アトランタは高校3年生のときで、メダルは取れなかったけど自己ベストの成績で個人としては満足でした。シドニーではメダルを取ることができたけれど、私には苦しいオリンピックでした。選考会の素晴らしい記録で注目されたけれど、常に周りに報道陣がいる状況を受け入れられなくて、練習のたびに調子が悪くなっていきました。本番でも結果は出せず、個人種目で6位と7位という成績でした。落胆して水泳を嫌いになったし頑張っても意味ないと思いました。しかし数日後のメドレーリレーで中村真衣ちゃんなどのメンバーに「4人だったら大丈夫」と背中を押され、思い切って泳いだ結果3番という成績で、このとき本当に仲間ってありがたいと思いました。その後、アテネを目指してアメリカにトレーニングに行ったんですけど、恐怖がどこかに残っていて、泳ぐことが怖くなったりの繰り返しでした。選考会前の大事な時期に不安でたまらなくて、家族に「もう水泳を止めたい」って弱音を吐いたとき、母に「辛いならやめなさいと言ってあげたいけど、今やめたら必ず後悔する」って言われたんです。それまで水泳に関して何か言われたことはなかったのに初めて強い言葉を言われて、諦めないことの大切さを教えられました。そして無事出場し、200mの平泳ぎで4番という成績でした。私は悔しい気持ちはあったけど、すごくスッキリしてたんです。不安を乗り越えてスタート台に立てたことが自信になったんですね。今、子供たちに水泳を教えるとき、堂々と4番の話します。何を伝えたいかというと、1番を目指すことは大事だけれど、1番でなくてもそこまで頑張る過程に意味があるんだってということ。それは自分だから伝えられることだと思います。

今回の北京オリンピックはテレビのキャスターとして伝えさせていただきました。心に残ったのは選手のインタビューの際の言葉。周りへの感謝の気持ちがすごく印象的でした。昨日、水泳の北島選手とお仕事で一緒になったとき、どうしてそんなにモチベーション高くいられるのかっていう質問に、彼は周りの力があるからだと話していました。追い込まれば追い込まれるほど力を発揮できる。ライバルがいて燃えることで自分の限界を超える。競技全体にそれはあるし社会もそうだと思います。幼稚園とか小学校の運動会で手を繋いでゴールするところがあると聞きましたけど、それは一寸違うんじゃないか。競い合うことで自分を高めることができる。競い合うってとても意味のあることだと思います。北島選手がすごいのは彼の集中力。レースの前は普通の青年ですけど、招集所に行く瞬間、オーラが変わります。その瞬間、「ゾーンに入るんだ」と言っていました。そこがほかの選手と違うのかなと思います。



日本ではサッカーや野球はプロスポーツとして認められていますけど、それ以外のスポーツの方たちもすごい努力をしています。マイナースポーツにも目を向けていただきたい。戦争とか争いごとが抑えられているのはスポーツがあるから。いきなり人を刺しちゃったとかいう事件を聞かされたときに、もしその人がスポーツをやっていたら人のありがたみを学べたのと思います。オリンピックを機会にそういったことが大きくなっていくよう、私もお手伝いしたいと思っています。ありがとうございました。